

埼玉佛教

平成31年1月 第217号

平成31年1月7日 発行
 No.217
 〒330-0063
 さいたま市浦和区高砂4-13-18
 一般財団法人 埼玉県佛教会
 電話 (048) 861-2138
 FAX (048) 864-6649
 発行人 倉持 秀裕
<http://saibutu.net>
 印刷所 関東図書株式会社



第40回 埼玉県佛教徒大会
 大会テーマ「あなたの幸せがわたしの幸せ」

「第40回埼玉県佛教徒大会」(行田市教育文化センター「みらい」・平成30年10月4日〔木〕)

新年挨拶	2
宗教法人研修会	2
受章報告	3
第11回仏教文化講座(予告)	3
第40回埼玉県佛教徒大会	4
義援福祉募金報告	5
平成30年度第3回理事会	6
特殊詐欺撲滅会議	6
第1回埼玉佛研修会	6
地区仏教会だより	6
・蕨・戸田仏教会	7
・浦和仏教会	7
・越生・毛呂山仏教会	8
・東松山・滑川仏教会	8
・川越市佛教会	9
寺院だより	9
・金澤寺(鳩山)	9
トピックス	11
・「全仏」	11
・「埼玉連」	11
・「人権埼玉実行委員会」	13
・「埼玉同宗連」	14
年賀名刺広告	15
埼玉県佛教幼児画展(予告)	15
訃報	16
事務局日誌	16
感謝のご挨拶	16



新年挨拶

一般財団法人埼玉県佛教会

会長 倉持 秀裕



謹んで初春のお祝いを申しあげ、併せて皆様の除災招福をお祈りします。平素は本会事業推進のため、温かいご理解とご協力を賜っておりますこと、衷心より御礼申しあげます。お陰様をもちまして本会の2大行事であります、各流讃佛歌奉詠大会（9月10日・埼玉会館）、ならびに佛教徒大会（10月4日・行田市教育文化センター「みらい」を盛大に円成する事ができました事を重ねて、篤く御礼申し上げます。

さて昨年は、全国各地で自然が猛威を振るい、豪雨や地震によつて、多くの尊いいのちが奪われました。これらの大災害の犠牲になられた方々のご冥福と被災地の早期復興をお祈りいたします。

また、激動する社会の中で、先行きの見えない時代の閉塞感に不安を募らせる人々が多いこともさることながら、自身の身勝手から家族や友人を道連れにした凄惨な事件、不特定多数を狙った無差別な事件が後を絶ちません。どうして人の心は荒んでしまったのでしょうか。

暗い話題ばかりが報道される最中、「心のよりどころ」として、伝統の中に新しさを感じている人達が増えつつあるように思います。パワースポット巡りと称して寺社仏閣巡拝を趣味にしたり、断捨離ブームにのって身辺整理をしたりと様式は三者三様です。

寺院の伝統行事以外に、「コロナとカラダを整えるよりどころ」として寺院を活用した多様なイベントが世間の脚光を浴びております。その時々々の潮流を我々僧侶が敏感に捉え、社会が求めているものに柔軟に応えられるようにすることも「心の安らぎ」を手引きする宗教者の実践行であると思います。

まもなく平成時代が終わり、5月から新しい時代が始まります。安寧の世が訪れますよう祈念いたしました年頭のあいさつといたします。

合掌



【平成30年度 宗教法人研修会】13:30～16:00

- (1) 埼玉県における基本的な事務手続きについて (45分)
- (2) 「自分の命、守れますか?～あなたの防災対策～」(90分)

- 平成31年2月22日(金) さいたま会場 埼玉佛会館・2階会議室
- 平成31年2月25日(月)川越会場 ウェスタ川越公共施設棟内・4階大会議室

お問い合わせ先 埼玉県総務部学事課 総務・宗教法人担当 金子

電話 048-830-2568

㊦ 叙勲・褒章、ご受章おめでとうございます ㊧

平成30年《秋の叙勲・褒章》

瑞寶雙光章 土橋 元孝 師 (秩父市・大林寺 更生保護功勞)

藍綬褒章 相川 孝丞 師 (さいたま市・宝性寺 更生保護功績)

第11回 埼玉佛教文化講座

入場無料・要参加申込

《開催》平成31年2月12日(火)

開場14時00分、開会14時30分、閉会16時30分〈予定〉

会場：埼玉会館・会議室〔さいたま市浦和区高砂4-13-18〕



お香が仏教の伝来とともに、日本に入ってきたというのをご存知でしょうか。今回は、京都高台寺の副執事をお母様に持つ、創香師の市毛和佳奈先生を講師に招き、お香の歴史と効能についてお話いただきます。また好みのお香をブレンドして自分だけの「におい袋」を作りましょう。

《演題》

「お香の歴史と効能について」

～お香と仏教の関係、歴史や効能を学びましょう～



《講師》^{いちげ}市毛 ^{わか}和佳奈 先生

『和の香り』創香師、YOGAインストラクター他

■お申込方法…開催案内ちらし裏面の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。〔FAX 048-864-6649〕

参加申込書は当会のホームページ(www.saibutu.net)に開催案内ならびに参加申込書を掲載しておりますのでダウンロードの上、事前アンケートを含む(必要事項)をご記入の上、FAXにてお申込ください。また、参加申込書は、埼玉会館2階事務局にもあります。

※お申込が定員(60名)に達し次第、受付を終了いたします。予めご了承ください。

※開催日が近くなりましたら「参加確認証」をお送りいたします。

第40回埼玉県佛教徒大会

◆平成30年10月4日(木)、行田市教育文化センター・みらい

「文化ホール」において第40回埼玉県佛教徒大会が開催された。今大会は行田市佛教会(福島伸悦会長)が主管となり、埼玉県北部地区仏教会が後援した。

大会テーマは『あなたの幸せがわたしの幸せ』で参加者は県内外各地から約500名。

福島伸悦実行委員長の開会のことばで開会。続いて、法楽が



厳修され、倉持秀裕会長が主催者あいさつを行った。続いて、

全日本仏教会事務総長の戸松義晴師へ西日本豪雨への義援金を贈呈した。壇上に臨席いただいた戸松義晴師ならびに行田市長の工藤正司様から来賓祝辞を賜った。

記念講演では、講師に曹洞宗愛知専門尼僧堂堂長の青山俊董師を迎え『ほほえみと愛の言葉をくぬくもりの修行』と題し、ご講演いただいた。

— 講演内容 —

全ての人に「時間」という財産が平等にあります。1日は24時間。お釈迦様は人生の幸不幸を、光と闇に置き換えて、この世の中には4種類の『闇から闇へ生きる人、闇から光へ生きる人、光から闇へ生きる人、光から光へ生きる人』が居ると説いています。同じ時間を2、3時

間の中身で過ごすか、30、40時間の濃い中身で過ごすことができるか。またその時間を鬼を出して生きるか、仏を出して生きるか。光として生きるか、闇として生きるかで一生はずいぶんと変わります。

たった一度の人生ならば、無理をしても仏を出して生きる方を選びたいものです。たとえ相手に腹を立てた時もグツとこらえて、腹に力を入れてにこつ

と笑顔をつくれれば、笑顔の世界が始まるものです。澤木興道老師の名言に「夫婦喧嘩をしようと思つたら、まず合掌してから始めなさい」とあります。「ま

ず合掌」、合掌したらいやでも合掌の世界がそこに開かれ喧嘩にはなりません。つるる思いを、暴走しそうになる自分の思いや行動を一瞬押さえて、「先ず合掌」をする。これができれば、展開する人生の景色は随分と変わってゆくことでしょう。

ある講演会でノートルダム清心学園理事長でカトリック教会



修道女の故渡辺和子先生と一緒にした時、「不機嫌な顔をして歩いているだけで、環境破壊も甚だしい」という言葉を学びました。相田みつをさんの詩の中にも「あなたがそこにただいるだけでその場の空気があかるくなる あなたがそこにただいるだけでみんなのところがやすらぐ そんなあなたにわたしもなりたい」という名言があります。曹洞宗の開祖である道元禪師は、著書『正法眼蔵・四摂法』の中に「ただまさに、やわらかなる容顔をもて、一切にむかう

べし」との言葉を遺されました。この言葉は、「どのような場合でも、ただただ柔和な態度で全ての物事に接しなさい」という意味です。そして巻の結びに「愛語能く廻天の力あることを学すべきなり」と記しております。慈愛に満ちた言葉が、天地をひっくり返してしまうほどの力を持つている、運命をも180度変えてしまうほどの力があるということ。お釈迦様も、「自分が幸せになりたいと思うなら、人を幸せにすることだ。人を幸せにしない限り、自分の幸せはあり得ない」と教えています。自分がどこまで変われるかを自分自身に問いかけて、相手に求めないことが大切なのです。そんな生き方ができればいいです。と講演を結んだ。

第二部のアトラクションでは、舞台上に埼玉県女流工芸作家協会会長の瀧澤布沙氏が描いた蓮池の舞台幕の前で、行田アンサンブル協会による優美な演奏の中、

芥川龍之介原作の「蜘蛛の糸」と、青森県八戸市にある曹洞宗常現寺住職、高山元延師創作「その後のカンダタ」が、東松山市を拠点に活躍されている語り手、まちこさんの語りによって演じられた。

▼その後のカンダタ：相変わらず、蜘蛛の糸を登っては墜ち、登っては墜ちを繰り返していたところ、ある時、お釈迦様が垂らしてくださっていると思っていた糸が、実はかつてカンダタに命を救ってもらい、カンダタを命の恩人だと考えた蜘蛛自身の「心」からなのだと気がついた。その時を境にカンダタに「慈悲の心」が芽生え、自ら登るのをやめ、むしろ、地獄の底から猛者達を極楽へ登らせようと「慈悲喜捨」の実践を始めた。すると、真つ暗闇の地獄にはカンダタの慈悲心が満ち溢れ、地獄はいつの間にか極楽になり、カンダタの身体は眩いばかりに光り輝き、菩薩の姿になっていた。

たという。

大会の結びに、行田市佛教会の巢山民保大会副実行委員長から謝辞が述べられ閉会となった。

『県佛大会義援福祉募金報告』

第40回埼玉県佛教徒大会の開催当日、参加の皆さまからお預かりした義援福祉募金の合計金額は176,266円になった。募金は行田市佛教会から、行田市社会福祉協議会へ寄託し、社会福祉事業に役立てていただく。



8月盆明け、八戸に帰郷した際、高山元延師の自坊、常現寺を表敬訪問（小池）させていただいた。高山師に創作の意図を尋ねた。すると、『物語を聞いた少年時代から、自身が成長して曹洞宗僧侶となり、衆生を救うべき立場となった時にふと、この物語を思い起こし、地獄に墜ちた者にも尊い命があるのだから、地獄に墜ちたままのカンダタをなんとか救ってあげられないものかと考え、それならばと、悪口雑言的に改ざん自説を書き連ねつつ、「その後のカンダタ」の創作を始めたんです。』と自称、悪たれ川龍之介を名乗る高山元延師からの説明を伺い、行田での再会を約束し常現寺を後にした。



高山元延師
(八戸市・曹洞宗)

『平成30年度 第3回理事会』

平成30年10月22日(月)、10時30分から埼玉佛会館において、『平成30年度第3回理事会』が開催された。この理事会は、去る平成30年7月30日(月)に開催された『平成30年度第1回執行部会』で検討された内容に基づいて協議された。議事中、『子ども貧困問題、子ども支援ネットワーク』については、埼玉県福祉部少子化対策局から企画幹の内田貴之氏が訪れ、取り組みの概要説明ならびに埼玉県内寺院への協力を呼びかけた。このことについて、協議の結果、先ず、子どもの貧困問題や子ども食堂の運営協力のほか、寺院境内を活用した「こどもの居場所」づくりをテーマにした研修会を開催して研鑽を深めた後に、県内各地区仏教会へ県の当該部局に訪問してもらい、説明会な

どを実施していただくことが得策ではないかとの意見が出され、承認された。



『特殊詐欺撲滅会議』

平成30年11月30日(金)、さいたま市プリムローズ有朋に於いて、埼玉県特殊詐欺撲滅官民合同会議が行われた。当会からは金子嘉広事務局長が参加。

会議では、県内での特殊詐欺の発生状況や行政、企業などの防止に向けた取り組みなどが発表された。キャッシュカード詐欺が増加傾向で、留守番電話機能や詐欺防止機能を使い、犯人と直接電話で会話をしないことが一番の防止策とのことである。

また、重点取組事項として、『被害に遭っていきそうな高齢者への声かけ』と『不審者を見かけたらすぐ通報』があげられた。

『平成30年度 第1回埼玉佛研修会』

平成30年12月10日(月)、15時から埼玉佛会館2階会議室で本会役員ならびに地区仏教会役員を対象とした「平成30年度第1回埼玉佛研修会」を開催した。この研修会では先の「平成30年度第3回理事会」の承認に基づき開催された。開会行事では河野亮玄常務理事から、開会あいさつ。

続いて、本会を代表して加藤玄静副会長が主催者あいさつを行った。講師は全日本仏教会社会人権部から推薦いただいた葬送ジャーナリストで葬送評論家の碑文谷創先生。はじめに『散骨』をめぐる問題』と題してご講演いただき、続いて事前アンケートで集約した碑文谷先生への質問についてご回答いただき、約2時間にわたる研修会。参加者は約30名。



地区仏教会だより

『倉持秀裕師 会長就任祝賀会』

蔵・戸田仏教会

平成30年10月19日(金)、蔵・戸田仏教会(御嶽隆英会長)は、倉持秀裕師の本会会長就任祝賀会を浦和ロイヤルパインズホテルで開催した。本会から理事ならびに監事、および事務局が招待を受けた。当日は平等寺の中村



信成師の司会によって進行された。蔵・戸田仏教会の御嶽会長から発起人代表あいさつがおこなわれた。続いて本会副会長の加藤玄静師が祝辞を述べ、倉持秀裕会長から謝辞が述べられた。そして糸原恒久副会長による発声により乾杯となった。事務局からは、金子嘉広事務局長と本間照康主事補が出席。

『浦和仏教会研修会』

浦和仏教会

平成30年11月2日(金)に浦和仏教会主催(吉田英夫会長)の研修旅行を行った。浦和駅前からバスで出発、高尾山薬王院拝観、鹿野大仏見学、小澤酒造見学、さいたま新都心到着という旅程。参加者は会員寺院(壇信徒含む)及び協賛会会員の15名。

バスは秋晴れの中、東北道・圏央道を通って清滝駅へ。行楽

客でいっぱいなのケーブルカーに押し込まれ高尾山駅に到着。所々色づき始めた紅葉を楽しみながら薬王院へ向かった。ご本堂での御護摩祈禱を受け心身とも清められ、清々しい気持ちでリフトで下山。久しぶりのリフトは景色も良く風が気持ちよかったです。奥高尾の山間の澄んだ空気に包まれて「うかい鳥山」で昼食。風雅なひとときを味わった。次に、今年春に完成し、この秋に公開されたばかりの鹿野大仏(西多摩郡日の出町・宝光寺)を見学。青空に向かって山の中腹に佇む姿は美しく勇壮な感じがした。現存する坐仏としては東大寺大仏に次ぐ国内2位の大きさになったそう。続いて創業1702年江戸の元禄時代から続く老舗蔵元の小澤酒造で試飲と買物を楽しんだ。澤乃井の銘柄

で有名である。無料の酒蔵見学やきき酒もあるようなので再訪の楽しみができた。観光シーズンということもあり予定より大分遅れてさいたま市内へ戻り、今日あったことなど楽しく語りながら夕食までいただいた。お天気に恵まれ秋を満喫した旅行となった。(永堀)



『越生・毛呂山仏教会研修会』

越生・毛呂山仏教会

平成30年11月6日(火)、14時から、越生・毛呂山仏教会(渋谷辯洋会長)は僧侶・寺族研修会を開催した。会場となった法恩寺(越生町・智山)は武蔵越生七福神めぐりのスタートとなるお寺。講師は、画僧の高橋英心師(智山)が務め、「十三仏を学ぼう」と題して講演された。

高橋師は冒頭『今日の研修会を通じて、我々僧侶が遺族の前で説法や説教をする際に、一般の人に理解してもらえらるような材料を提示できれば良いと思います』と話を始めた。

初めに、『佛』の字は偏(へん)と旁(ぼう)に分けると「人に弗(あち)ず」という意味となる。つまり、人間でありながら悟っている人。言い換えれば、正しい道に導いてくれる人を表したものであると説明。さらに、仏(菩薩、如来)様の



首に描かれる三本の線は、三道具と呼ばれ、諸説あるものの、ありのままを正しく見る『見(けん)』。次に、正しい見方で修行を行う『修(しゆ)』。そして、学ぶものがなくなつて修行を終える『無学(むがく)』という三つの意味があるという。他にも仏様の手のひらや、耳の特徴など、日頃、仏画を描かれている高橋師ならではの探究心が垣間見えた。休憩を挟んで、後半は本題の

「十三仏」。人が亡くなつてから七七日を迎えるまでに現れる裁判官を不動明王から順番に薬師如来まで、容姿の特徴、役目などに触れた。説明は画僧たる高橋師の繊細な視点と経験の中から練り出される、心惹きつける語り口調によつて時間の経過を忘れるほどで、あつという間の150分。時間の関係もあり、百か日から続く観音菩薩以後の説明は、次の機会にと講演を結んだ。

当日は、越生・毛呂山仏教会会員寺院のほか、当会理事の宮寺守正師(鳩山・玉川/曹洞)を含め13名が参加した。(小池)

『第24回仏教講演会』

東松山・滑川仏教会

平成30年11月17日(土)、東松山・滑川仏教会(村井惇匡会長)主催の「第24回仏教講演会」が東松山市民文化センターを会

場に開催され、およそ500名の仏教徒が集まった。

開会式は、開式法要から始まり、担当の日蓮宗(導師・村井会長)のもと、加盟各宗派から代表2名が登壇し、来場者も声を合わせ、三帰依文をお唱えした。続いて村井会長からの挨拶、さらには交通安全対策協議会へ講演会参加費の一部を交通遺児援護金として寄贈し、同会より感謝状を頂戴した。

講演の部では、落語家桂春蝶師から、「約束の海くエルトゥール号物語」というお話をいただいた。1890年、和歌山県串本沖でオスマントルコの軍艦「エルトゥール号」が座礁し沈船。600名以上が海へ放り出された。檜野埼灯台下へ流れ着いた生存者の通報により、大島島民が総出で必死の救助活動にあたり、69名の命が救われた。帰国した生存者達の「このご恩は生涯忘れません」との思いは、世代を超えて語り継がれ、



開催されている。東松山・滑川の各宗派の檀信徒が一同に揃い、仏教徒であることを確認する本講演会は、地元の恒例行事として定着しつつある。今後もより多くの方にご来場いただけるよう務めていきたい。

（報告 東松山・滑川仏教会

事務局 嵩 海史）

『成道会法要・記念講演』

川越市仏教会

今日の日本トルコ両国の友好的な関係の礎となったという。恩とは何かについて考えさせる内容のお話で、時折笑いを入れながらの、あつという間の70分であった。

本講演会は開催にあたり、会員寺院と親交のある関連業社や寺族など50余名が会場の設営、駐車場、受付等の係に携わり、また御宝前の供花、来場者へのお茶・絵馬の奉納をされる業社もあり、様々な御助力によって

平成30年12月1日（土）川越市佛教会（佐々木俊道会長）主催による恒例行事、成道会法要と仏教講座が開催され参加者は約100名。

蓮馨寺様ご本堂を会場にして、ご住職兼原恒久上人を導師に12名の式衆により法要が厳修された。続いて理学療法士による「いもっこ体操」をはさみ、記念講演では千葉公慈師（千葉県宝林寺住職・駒沢女子大学教授）が



（報告・川越市佛教会事務局
二芳弘道）

寺院だより



『金澤寺開創800年祭』

（鳩山町・金澤寺）

平成30年11月4日（日）、鳩山町の金澤寺にて「開創800年祭」が開催された。住職の宮寺守正師は本会の理事を務めている。

「お釈迦さまの成道の物語」と題して、80分にわたり法話をし下された。ご専門の初期仏典の中から「南伝大藏経」などに記された物語をもとに釈尊の当時の様子をたどり、現代に生きる私たちに大切なヒントを与えて下さっていることに触れ、参加者一同、終始聞き入っていた。スジャーターによって供養された乳粥の作り方も詳しく解説され、精神の輝きを増すための食の大事をお話し下さった。

金澤寺は、建保6年（1218年）僧正達によって開基創建されたという記録が書物に残されている。創建当時は、現在のときがわ町にある慈光寺を本寺に天台宗寺院として開創された。その後衰微したが、後に入間郡龍ヶ谷村（現越生町）龍隠寺の16世、開山梅叟高和尚を招き、曹洞宗寺院として中興され、鳩山町を中心に地域の布教の拠点



として栄え、2018年で開創800年を迎えた。

この日は、金峯山修験本宗総本山である金峯山寺から五條良知猥下が招かれ、採灯護摩供の導師を勤められた。宮寺師と五條師の親交は、五條師が全日本仏教青年会の第16代理事長を務め、続いて宮寺師が17代理事長に就任した時から続いているとのこと。

開式にあたり、初めに隣接の畑地から山門まで色鮮やかな衣装をまとった子ども達の稚児行列



列が練り歩き、式に彩りを添えた。続いて、金峯山寺管領修法に則り、採灯護摩供が厳修された。行者衆が結界で囲まれた道場に入った後、山伏問答から事が始まり、護摩の秘法を修した後、護摩檀に点火。もくもくとした煙が次第に火柱となり、高く立ち昇った。山伏達の読経の声と錫杖の聖なる音が響く中、導師が護摩木を投げ入れ、萬民豊樂を祈願。行者衆が炎熱ゆらめく燠の上を渡り歩き、続いて随喜寺院の方々が火渡修行を

行った。中には自分自身が火渡をするのは今回が初めてで良い経験になったという声も聞こえた。

随喜寺院の中には、かつて金澤寺が天台宗寺院であった時の本寺でもあり、現在、本会代議員の慈光寺住職、佐伯頼栄師ときがわ／天台、ならびに延命寺住職の渋谷辯洋師（越生・毛呂山／智山）もあつた。

宮寺住職は、800年祭を控え、去る10月26日（金）、金峯山寺で行われた『金峯山寺管領修法・八千枚大護摩供』に随喜、助法され、この日に臨んだ。僧侶に続いて、この日、金澤寺に参集された一般の参拝者、約300名もそれぞれの想いを胸に火の中を歩いた。火を渡る参拝者を温かい眼差しで見守る宮寺師が印象的であつた。

後日、宮寺師を訪ね、開創800年を記念して制作された涅槃図を見した。涅槃図には何種類かの異なる図様や流派が



あり、永見寺（台東区・曹洞）住職の葛西好雄師と共に涅槃図を精査、考証し、それを真言宗智山派の画僧、高橋英心師が半年かけて高さ3尺、現存する最大級の土佐和紙1枚に描いたという。涅槃図には、時代に流行している描き方や色使いがあり、描いた本人を描くこともあるとのこと。この涅槃図にもお三方が描かれている他、宮寺師の寢床に時々出没するムカデや、上野動物園のパンダ等々。宮寺住職によると、今年3月に開眼供養を厳修し、同時に葛西師による絵解きの説明を行う予定とのこと。

トピックス

全日本仏教会

「第29回WFB世界仏教徒会議
日本大会・世界平和祈願法要」

全日本仏教会は「ご縁をかたち、絆を行動に」をテーマとして財団創立60周年記念事業を進めてきた。一昨年は全日本仏教徒会議を福島県で開催し、昨年11月9日（金）は、第29回WFB世界仏教徒会議日本大会を「慈悲の行動」を大会テーマに掲げ、曹洞宗大本山總持寺にて開催した。

午前中の世界平和記念法要では、全仏会長の江川辰三師が導師を勤め、曹洞宗の法式に則り法要が営まれた。般若心経の読誦に続き、厳かに大般若転読が行われ、世界平和を祈願した。午後から行われたシンポジウムでは「生死の中に見出す希

望」をテーマとして、はじめに禅僧でアメリカ人のジョアン・ハリファックス老師が社会参画仏教という観点から、終末期ケアの現場や刑務所の死刑囚監房など、死を目前とした人々の元での活動に焦点を当てて、個人の意識や社会変革の方法としての「智慧にもとづく希望」について基調講演された。続いて、僧侶の本業の傍ら、セルフケアを学ぶワークショップ等を主宰されている根本紹徹師、東日本大震災被災地で「こころの復



興」を掲げ災害復興ボランティア活動とコーディネート活動が、それぞれ久間泰弘師が、それぞれ立場からスピーチを行った後、全仏事務総長の戸松義晴師がコーディネーターを務めパネルディスカッションが行われた。

本会から、倉持秀裕会長、糸原恒久副会長、馬場知行常務理事、藤井壽雄評議員、さらに入間市仏教会から豊田春勇師、川越市蓮馨寺から副住職の吉川正人師、そして事務局から金子嘉広事務局長、小池康宏・本間照康主事補が参加した。

埼玉県宗教連盟

「平成30年度研修旅行」

平成30年10月11日（木）～12日（金）、1泊2日の旅程で「平成30年度埼玉宗連研修旅行」（倉持秀裕理事長）が実施された。参加者は42名で本会からは倉持秀裕会長をはじめ6名が参加。今年の本会の担当で、テーマは

「世界遺産日光山輪王寺、坂東三十三観音第17番札所出流山満願寺、日本三名瀑・華嚴の滝、栃木県の旅」。初日は、大宮駅東口に集合しバスで栃木市出流町の出流山満願寺へ移動。まず、本堂にて満願寺の歴史等のお話を拝聴し、その後、雨が降る中、石段や山道を20分ほど登って奥の院手前にある「大悲の滝」へ。大松院の三浦清志師と大應寺随行の藤井徹元師、阪田真也氏が滝行を行い、参加者一同は合掌してそれを見守った。滝行が終



部を移築し、大正時代に増改築が行われたため、江戸後期・明治・大正と3つの時代の建築様式をもつ珍しい建築物。入口近くには資料

わると、足腰に自信のある人はさらに石段を登って奥の院を参拝し、バスで昼食会場の「いづるや」へ。「いづるや」は満願寺参道の入口にあるそば屋でも一番の老舗。名物の盆ざるそばの他、天ぷらや炭火焼のマスに舌鼓を打った。昼食の後は華厳の滝を見学する予定だったが、悪天候により霧が発生し、滝が見えないとのこと。そのため、急遽、大正天皇の静養地であった田母沢の御用邸を見学することに。田母沢の御用邸は、明治の銀行家・小林年保の別邸に旧紀州徳川家江戸中屋敷の一部を移築し、大正時代に増改築

や説明が展示されている部屋、奥にはピリヤード台の設置してある御玉突所や謁見所などがあり、非常に趣深い様相。係員が「隠れた日光の名所」と説明していたが、まさにその通りといった印象を受けた。御用邸見学の後は宿泊先である「日光千姫物語」にて疲れを癒し、初日は終了。

2日目は、まず輪王寺大猷院を参拝。大猷院は三代将軍家光公の廟所で、祖父である家康公の東照宮を超えてはならないとの遺言で、金と黒を使った造りとなっており、石段の数も少ないとのこと。また、寺院は通常南向きに建てられるが、大猷院の本殿は東照宮の方面である東北を向いて建てられている。そのため、本殿の裏にもう一つ部屋があり、隠れ本尊として、釈迦三尊画像が南向きに掛けられているとのこと、今回は特別に本殿の裏へとまわり、その釈迦三尊画像を拝見させていただ

いた。その後、拝殿内部を見学、半数以上の参加者がおみやげに龍神破魔矢を購入し、輪王寺へ。輪王寺では輪王寺総務部長の今井昌英師にご案内いただき、宝物殿を見学。家光公は家督争いの関係で父の秀忠公よりも祖父の家康公を大変慕っていたため、自ら「二世権現」を名乗ったことや、日光山を開山した勝道上人のことなど貴重なお話を伺うことが出来た。宝物殿見学の後は記念撮影をし、日光殿堂案内協同組合理事長の春日武之



さんのガイドで現在保存修理中の輪王寺本堂である三仏堂を参拝。続いて東照宮へと向かった。東照宮では、春日さんのユーモア溢れるガイドを楽しみながら、

五重塔や「見ざる聞かざる言わざる」の三猿で有名な神厩舎を見学。陽明門手前の鳥居では、門から少し離れた石畳の上で当時の人の身長である150センチくらいにしゃがむと、ちょうど門と鐘楼・鼓楼が左右対称になり、奥宮の宝塔と門が一直線になるため、パワースポットになっていることを教えていただいた。その後は拜殿、眠り猫、鳴き龍で有名な薬師堂（本地堂）を見学し東照宮の参拝は終了。昼食会場である「明治の館」へ。明治の館は、蓄音機を日本に初めて紹介したアメリカの貿易商マホーン氏の別荘で、現在は登録有形文化財になっている洋館レストラン。明治時代を彷彿とさせる素晴らしい雰囲気の中、ハンバーグをメインとしたコース料理に加え、おすすめのおムライスをいただいた。お腹を十分に満たした後は、バスにて大宮駅東口へと戻り解散となった。

(本間)

「人権埼玉実行委員会」

「第19回県知事・

県議会議長要請行動」

平成30年10月16日(火)、人権教育・啓発推進埼玉県実行委員会「略称・人権埼玉実行委員会」(倉持秀裕会長)は、「第19回知事要請行動」を県議会議長室および県知事公館で実施した。午前11時から知事公館で行われた要請行動では要請団を代表して本会の倉持秀裕会長が代表者あいさつを行い、「医科大学の女子一律減点やスポーツ界のパワハラなど新たな問題が噴



出するなど、人権が尊重される住みよい社会づくりのためには、教育・啓発を根強く推進することが肝要。ぜひ積極的な取り組みをお願いしたい」と述べ、上田清司知事に要望書を手渡した。最後に、「埼玉同宗連」議長の倉持光恭師の閉会あいさつで行動を閉じた。

「長崎県実行委員会との

視察交流会」

平成30年10月5日(金)から2日間の行程で「人権埼玉実行委員会」は埼玉県と長崎県実行委員会との視察交流会を実施した。「解放同盟」からは小野寺一規氏、「埼玉同宗連」としては副議長の廣田賢也師(曹洞宗埼玉県第一宗務所)と事務局の小池康宏主事補が参加した。その他、埼玉人企連や行政を合わせて10名が参加。

朝、羽田空港に集合し空路で長崎入りし、長崎市内のホテル



にて長崎県実行委員会との意見交換を行った。

まず部落解放同盟長崎県連合会委員長の山口渉氏が歓迎のあいさつを行い、続いて埼玉県を代表して小野寺一規氏があいさつを行った。続いて、長崎人権研究所事務局長の阿南重幸氏から、長崎県における部落差別問題への取り組みが報告された。また長崎市が開港四百年を記念する行事で、参加者に配付され

たお土産の包装紙に「穢多」「非人」の記載がある「長崎凶録」が使われ、これが「差別古地図事件」に発展したことなどを紹介した。また昨今、インターネッ ト上に不当な差別を誘発、助長する情報を投稿する実態もあるが、拡散対策など新たな対応策を模索していることにも触れた。阿南氏は、長崎大学の非常勤講師として江戸期の部落史を対外貿易とキリスト教との関わりで明らかにする研究も行っている。翌日は、長崎人権教の石村榮一氏の案内で「原爆と部落とキリシタン」をテーマに長崎市内に点在する江戸時代のキリシタン差別の舞台となった地区、そして原爆投下に関連する箇所をフィールドワークとして巡った。奇しくも原爆の投下によって、長崎市が一面焼け野原となると同時に、同和地区への偏見までもが焼失したかのようにも感じた。しかし、現実はまだに根深く、結婚を反対されたり、就職

時に不利な扱いを受けるなど、偏見に基づく理不尽な差別が存在しているという。

フィールドワーク中、原爆犠牲者慰霊塔を訪問し、副議長の廣田賢也師（曹洞宗埼玉県第一宗務所）の読経により、一同焼香を行った。

「埼玉同宗連」

「狭山事件」の再審を

求める市民集会」

平成30年10月31日(水)、13時から日比谷野外音楽堂で行われた狭山事件の再審を求める市民集会「つぎつぎと無実の新証拠！有罪判決の誤りは明らか！再審開始を！」に「埼玉同宗連」から議長の倉持光恭師、相談役藤井寿雄師（本願）、が参加した。全体集会に先立って、埼玉県の独自集会が行われ、再審勝利に向けて意思統一を図った。集会には全国から石川一雄さん

の支援者2500名が集まり、ミニコンサート、主催者挨拶、再審請求人の石川一雄さん・早智子夫人によるアピール、弁護団報告、基調提案、連帯アピール、市民の会アピールなどが90分にわたって行われた。続いて再審を求めて日比谷公園西幸門―内幸町―数寄屋橋―東京駅八重洲口前―常盤橋公園までの約3キロを約1時間かけてデモ行進した。最後に団結ガンバローを行い解散。

「第37回埼玉人権フォーラム」

平成30年11月8日(木)、加須文化・学習センター・パストラルカぞで「第38回埼玉人権フォーラム」が集会テーマ「世界のうびとと共に人権運動の輪を広げ、平和と人権の21世紀を創造しよう」を掲げて開催された。「埼玉同宗連」からは約80名が参加し、全体としては解放同盟をはじめ行政、教員、企業を含



めて約900名が参加した。

全体会では、解放同盟埼玉県連書記長の小野寺一規氏が「日本における人権の現状と解放同盟の課題」と題して基調報告を行い、続いて、同執行委員長の片岡明幸氏が「人権・同和の基礎知識（埼玉編）」出版にあたって」と題して記念講演を行った。午後は分科会に分かれ、第2分科会「人権啓発活動の課題」では、「埼玉同宗連」副議長の廣田賢也師（曹洞宗埼玉県第一宗務所）から「曹洞宗が進めてきた人権啓発活動の実際」について報告がなされた。また、高野山真言宗の備前島賢光師（元「埼玉同宗連」議長）が助言者を務めた。

謹賀新年



本年もよろしく
 お願い申し上げます
 合掌

(二財)埼玉県佛教会 専務理事
 水光山大應寺 住職

深谷 雅良

〒354-0011 埼玉県富士見市水子一、七六五
 TEL 〇四九一二五一五六一一
 FAX 〇四九一二五一五六一〇一

坂東十二番札所
 玄奘三蔵法師霊骨奉安
 天台宗 慈恩寺

住職 大嶋 法道

〒329-0009 さいたま市岩槻区慈恩寺一三九
 電話 〇四八 七九四一三五四
 FAX 〇四八 七九四一三〇七四

(二財)埼玉県佛教会 理事
 天台宗 慶福寺 住職

関口 亮樹

〒349-0115 蓮田市蓮田四一〇〇四
 電話 〇四八 七六八 一五三七
 FAX 〇四八 七六八 一二二八

(一財)埼玉県佛教会 会長
 真言宗智山派 三学院住職

倉持 秀裕

〒335-0001 蕨市北町3-2-4
 電話 〇四八 443-2125
 FAX 〇四八 443-2544

真言宗 智山派 密蔵院

住職 山口 正純

〒334-0057 埼玉県川口市安行原二〇〇八

真言宗豊山派

觀照院

〒343-0851 越谷市七左町七一二七八
 TEL 〇四八 九六二 一五六九五
 FAX 〇四八 九六二 一五六九六
 住職 鷺津 憲道

川口佛教会
 曹洞宗 傑傳寺

会長 小堤 孝雄

事務局 曹洞宗 正覚寺内
 〇四八 一二二 一二四八四

(一財)埼玉県佛教会 副会長
 本庄市 城立寺住職

加藤 玄静

〒367-0052 本庄市銀座3-4-7

天台宗 東泉寺 住職
 叡山講 福聚教会 埼玉本部事務局長
 (二財)埼玉県佛教会 常務理事

河野 亮玄

〒330-0044 さいたま市浦和区瀬ヶ崎二一五一三
 TEL 〇四八 八八六 一五二四
 FAX 〇四八 八八六 一五一一
 HP <http://www.urawa-tosenji.com/>

親鸞聖人旧跡
 浄土真宗本願寺派

楠井山 清浄寺

〒342-0045 埼玉県吉川市木売一〇一五
 電話 〇四八 九八一 一六〇〇〇
 FAX 〇四八 九八一 一六〇〇八
 JR武蔵野線「吉川」駅南口三分

天覧山 武陽山 能仁寺

住職 萩野 伸治

〒357-0063 埼玉県飯能市飯能一三二九
 電話 〇四二 一九七 三二四二八
 FAX 〇四二 一九七 四一五三四六
 携帯 〇九〇 一二四 〇九一七二〇八

(一財)埼玉県佛教会 副会長

浄土宗 蓮馨寺

住職 糸原 恒久

川越市連雀町七番地一
 電話 〇四九 一二二 一〇〇四三
 ファックス 〇四九 一二二 一〇六七六

(二財)埼玉県佛教会 常務理事

曹洞宗 寶持寺

住職 馬場 知行

鴻巣市箕田二〇三四
 TEL 〇四八 一五九 六〇七 一九
 FAX 〇四八 一五九 六〇七 二四

(一財)埼玉県佛教会 理事
 曹洞宗 金澤寺 住職

宮寺 守正

〒350-0305 比企郡鳩山町泉井二二七六
 電話 〇四九 二一九 三三七二二

<http://kontakuji.com>

埼玉県佛教保育協会 第34回埼玉県佛教幼児画展

《日時》平成31年
 1月12日(土) 13時〜17時
 1月13日(日) 10時〜16時
 《場所》埼玉会館・第3展示室
 [浦和区高砂3の1の4]
 ※入場自由

計 報

お悔やみ申し上げます。

平成30年 9月

11日 上尾市徳星寺(天台)

伊藤 亮俊 師(82歳)

23日 神川町石重寺(天台)

武田 廣研 師(85歳)

10月

5日 越谷市林西寺(浄土)

高志 光大 師(43歳)

15日 越谷市林泉寺(浄土)

木村 恵俊 師(90歳)

30日 深谷市東源寺(浄土)

押野見 孝之 師(71歳)

11月

2日 東松山市清見寺(曹洞)

白石 通昭 師(89歳)

元・理事

17日 川越市妙昌寺(日蓮)

沼田 正順 師(78歳)

元・理事

12月

1日 富士見市興禅寺(曹洞)

武田 秀嗣 師(94歳)

事務局日誌



11月

平成30年 10月

3日 県佛大会・前日打合せ

4日 第40回県佛大会(行田市)

教育文化センター(みらい)

5日 「人権埼玉」長崎県実行

委員会意見交換・視察交

流会(長崎県/小池/)

6日)

11日 「埼玉連」研修旅行(栃

木県日光市/12日)

16日 「解放同盟」埼玉県への

要請行動(県議会議長室、

知事公館/倉持会長、金

子局長)

17日 「解放同盟」第48回研修

会(埼佛会館)

22日 平成30年度第3回理事会

(埼佛会館)

31日 狭山市民集会(日比谷野

外音楽堂/永堀)

6日 越生・毛呂山仏教会研修

会(越生・法恩寺/小池)

8日 「埼佛青」写真

9日 「全仏」財団60周年記念

事業「第29回WBF世界

仏教徒会議/世界平和記

念法要(神奈川県鶴見

区・總持寺)

12日 「埼玉同宗連」現地研修

会(さいたま市・五反田

会館/金子局長、本間、

永堀)

16日 東京海上日動火災保険現

状報告会(埼佛会館/本

間)

22日 「解放同盟」埼玉県との

事務折衝(浦和・あけぼ

のビル/本間)

12月

10日 平成30年度埼佛研修会

(埼佛会館)

20日 「埼佛青」写真

28日 仕事納め

感謝のご挨拶

ご縁から、平成20年4月、現

埼佛会館の本格運営が始まると

同時に事務局に入職。佛教会を

はじめ、「埼佛保」、「埼玉連」、

「埼玉同宗連」、「埼佛青」と

関係の皆さまに支えられている

ことを実感しながら、切磋琢磨

できたのではないかと感じてお

ります。大変お世話になり、あ

りがとうございました。

本紙の第176号から編集に

携わり、本会ホームページの管

理運営など広報を担当させてい

ただきました。そして時間の許

す限り、地区仏教会、御寺院様

へ取材に赴き、微力ながら紙面

の充実化を図って参りました。

2月には文化講座を控え、一意

専心、業務に邁進いたします。

次号がお手元に届く頃は、深

山幽谷の地から、皆様方のご清

祥と本会の興隆を見守りたいと

存じます。(鯉/小池康宏 拝)

